

# 目標① 親子間の愛着形成の促進

- 施策1：親子のかかわりの促進（重点事項）
- 施策2：親の学びと育ちを支援する環境づくり

子供の心の健全な発達のためには、子供が自らへの信頼感（自己肯定感）をもつことが必要です。自己肯定感は、乳幼児期において、保護者と子供との間で形成される愛着関係（親子間の愛着形成）の中から獲得していくとされています。

**親子間の愛着形成**は、子供の心の健全な成長・発達に大きな役割を果たします！

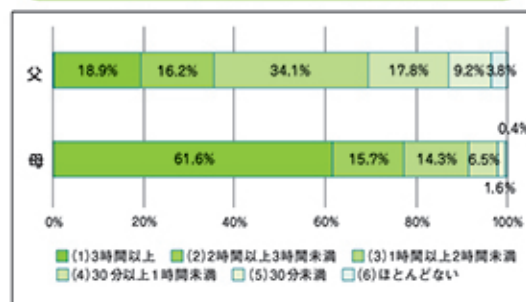
## 愛着形成ってどうするの？

親子でふれあうことが愛着形成につながります。  
ふれあい方はたくさんあります！



物事に積極的に  
かかわろうとする姿勢を  
育みます。

### 平日に子供とふれあう時間



出典：平成29年度幼児教育に関するアンケート（宮城県教育庁教育企画室）

### 今後の方向性

各家庭において、親子がふれあう時間や機会を増やすとともに、限られた時間の中でも、ふれあいの内容を充実させる必要があります。

子供とふれあう時間がなかなかとれない保護者の方は、限られた時間の中でも密度の濃いかわりを！  
子供にとっては**保護者の「笑顔」**が何よりの**安心感**です。

### 「親子間の愛着形成の促進」を図るために家庭でできる取組

- 「目と目を合わせた子供との会話」「声かけをすること」が大切です。
- 子供と一緒にいるとき（遊びなどでかかわっているとき）は、ビデオやテレビを消すこと、スマートフォンなどの操作をしないことが大切です。
- 毎日少しずつでも「読み聞かせ」など身近なふれあいを行うことが大切です。
- 家族の一員として、できることからお手伝いを積極的にさせることが大切です。
- 父親が子供に積極的にかかわっていくことが大切です。